

事業番号 2-5
細事業名 文化会館管理運営事業
担当課名 ふるさと文化課
会議内容 平成24年7月20日 事前説明会

事業担当課より説明

～ 質疑応答 ～

(評価者) 一般施設利用料収入が約3,000万円ということと総コストが約2億となつて

いるが、これぐらいでいいのか、もっと収入を上げるべきなのか、どのように考えているのか。

(担当) コストとしては市から支出の委託料が約2億700万円であり、ラブリーホール自体の予算としては約3億3,000万円。

収入については約3,000万円が貸室等の利用料収入である。一方それぞれの事業については別途収入がある。

(コーディネーター) そうすると一般施設利用料は総コストの約15%であり、それ以外に文化振興事業についても収益があるということなのか。

(担当) 収益については平成23年度でいうと各種事業の収入が6,218万円。

(コーディネーター) 年間9,000万円から1億円の収入があるということか。約総事業費の1/3が事業活動だけで収益を上げていると理解してよいか。

(担当) はい。それと市からの委託料で運営が行われている。

(評価者) 収益は財団の収入になるのか。

(担当) それで運営している。それと先ほどの利用料収入については、一定額を決めており3,000万円を線を引いている。3,000万円を超えた分については、半分は市に戻すという取り決めである。

(評価者) 市としては、今後内容を充実させて収益を増やしていく、または経費を縮小していくというようなこの事業に対する方向性はあるのか。

(担当) 現在約2億700万円の委託料を支出しているが、指定管理が導入された平成18年度と比較すると年々企業努力により約一千数百万円圧縮できている。

逆に、収益を上げるためには貸室を増やすことになるが、現在各部屋の利用率は高く、効果的に利用いただいていると思う。利用率が100%ではないがそれに近づける努力はしている。

また、事業自体の収益について、文化事業で利益を増加させるのはかなり難しいことである。先般の有名演歌歌手の公演でも黒字十数万円ほどである。一千数百万円

の事業でそれぐらいの黒字である。

(評価者) 吉本や松竹の興業であっても同じことだと思う。TV とタイアップするなどの工夫などがないと、舞台だけの入場収入だとそのようなものかと思う。

(担当) ショー的なものを TV と連携するのは難しいかと思うが、今年度 NHK の番組にも来てもらう予定だが、NHK ぐらいになるとどこも取り合いなのでなかなか回ってこない。

(評価者) 貸室の利用率が高いのであれば値上げしてみるのはいかがでしょうか。

(担当) 財団ではミュージカルスクールなどの育成事業も行っている。その練習などに部屋を使用しているため部屋の利用率にも反映しているが、収入としては計上されない。他の団体が使用すれば収入は上がるが、自主事業を除くと部屋の利用率は減ってくる。後は近隣とのバランスもある。また、本市は現在駐車場が無料なのでその辺もメリットであり他市より利用しやすいのではないか。ただ収入だけでいうと富田林市はプラネタリウムなども実施しているため本市よりは収入を上げている。

(評価者) 文化事業に対する市からの支援というのは、最近の大阪市の例からみても難しい問題だと思うが、文化事業への支援に対して市としてのスタンスはどう考えるのか。

(担当) 平成 18 年に文化振興計画を策定し、その後平成 22 年に教育委員会内に社会教育委員会議をつくり、その中で文化振興に関する具体的施策が答申されている。答申の中で、本市はハード的には文化会館、キックス、公民館や図書館などが整備されており、また活動自体は文化振興財団や文化連盟などがあるが、ただ、それらの情報が一本化されていないということであった。従って、市としては、人的資源も含めた情報を一本化して情報を欲する人に提供する。また情報を欲する人とどう結び付けていくかといったコーディネートの機能が必要であると考えている。そこで、文化振興計画を進めるための推進委員会があるので、その中でアーティスト等をはじめとした人的資源をどう発掘するのかという仕組みづくりを現在検討している。

(評価者) そういう中でラブリールホールは独立した公益法人で運営しており、文化といっても幅が広いと思うが、市が考えている文化振興と相容れないことはないのか。

(担当) 文化は幅広く、人が営みをもてばそこに文化がある。文化には大きく分けて市民文化と都市文化があり、市民文化の中でもラブリールホールは芸術文化を行っている。市としてはまちづくりをはじめとした様々な文化を推進していくべきであり、また横の連携といってもそれぞれの部署がある。例えばふるさと文化課でも文化といえば国際交流や文化財など、またラブリールホールに限っては文化芸術など、市としては文化芸術については市民文化の裾野を広げてもっと市民と密着していくことが必要と考える。例えば文化連盟などの団体との関連性ももちながら広めていかないといけないと考える。

(評価者) 市民にお聞きしたい内容欄に「芸術文化に限られた一部の市民の受益として捉えられている」との記載があるが具体的にはどういうことか。

(担当) 平成18年に文化振興計画策定の中でアンケートを取ったが、その中で文化に対する興味は低く、文化に対して関わりをもちたいが現実には関わっている方は少ないという結果であった。要するに文化活動に対する参加者が少ないということである。

(評価者) ボランティアについて、一つの事業単位のボランティアはいると思うが、ラブリー全体をいつもサポートするようなボランティア。例えば、障がい者の車いすを押すボランティアなどの活用はどうか。ラブリーの事業運営に関わるのではなく、事業を支えるボランティアの活用などを考えてみてはどうか。

(担当) 文化財について様々なボランティアに関わってもらっており、文化財の説明以外にも歴史学習館では草引きをできないかなどの呼びかけもしているところである。全体としてのボランティアの可能性を考えていくべきであると考えている。

(評価者) 今後の採算が取れる新規事業の企画や、いつ行っても何か催しを行っているような、そういう計画は考えているか。

(担当) 文化事業で儲けるというのはかなり難しいと思うが、貸室の中でもギャラリーの使用率が30%の時もあったので、その活用を広めるためにも発表する場が大事ではないかと考えている。発表などについてのPRを積極的にしていかなければいけないと思っている。

(評価者) 総事業費の1/3が収入であり、そこを市は少ないとみるのか、多いとみるのか。そのスタンスによって我々の提案もちがってくるのではないか。収益増加をめざすのか、観客動員数増加をめざすのか。

(担当) 難しい問題であり、収益を単に増やすのであれば貸室を増やすことで努力すれば良いということになる。例えば現在9割の利用率の中で自主事業であるミュージカルスクールの練習回数を減らすと、空きが出るのでそこに人を呼ぶという風なことである。ただそれだけでいいのかと思う。文化振興をいかに図っていくのが市として重要であると考えている。

(コーディネーター) 平成18年から指定管理者制度を導入し、どれくらい文化振興財団が財務力をつけているのか気になる。管理料を超えた収益は市に返すというのが原則の中で、新たな事業展開をする余力を残しているのか、またそういうことができるのか。

(担当) 平成18年度からで約5,000万円ほどである。

(コーディネーター) 正職員の実態、会館運営のスタッフはどのようになっているのか。

(担当) 正職員が8人 嘱託職員が6人 アルバイトが5人である。

(評価者) 現地視察した時、映画館としての運営の可能性をお聞きしたが、音響が難しいということであった。この辺に映画館はないので少しお金をかけて実施できるのであれば一人勝ちになるのではと思う。

また委託業者の決定の方法についても教えてほしい。

(担 当) 映画は既に何回か実施しているが、収益が上がるというほどでもない。ただ赤字にはなっていない。

(評価者) 映画館として誘致はできないのか、その他興業的なものにも発展させることなどはどうか。

(担 当) 映画館自体、現在シネコン、デジタル化や3D が主流であるので、おそらくあの場所でやるのは、逆に今やっているような古典的なものや特徴あるものの方向性の方がいいのかと思う。

(評価者) 映画館というのは動員数が見込めるので、うまく工夫すればそれこそ裾野を広げられる良い手段だと思う。ただ音響がよくなないと高齢者は聞き取りにくい。

(担 当) また委託業者の決定については毎年行っており、現在は随意契約である。

(評価者) 舞台照明などは随意契約が良いと思うが警備や清掃などについてはなぜ随意契約なのか。

(担 当) その点については、市の監査部局からの指摘を受けて次回から競争により契約するよう予定している。

(評価者) 芸術的、文化的なものでしか収益上げることは無理なのか。例えば小ホールでは結婚式ができると聞いたが、そういうプロデュース的なものを行っていくことなどはどうか。

(担 当) 実際、今も文化的なもの以外に貸室もしている。そういうところとも提携していくことも良いことかと考えている。

(評価者) 市民の方にお聞きしたい内容に、「芸術文化活動の裾野を広げていくことの必要性について」との記載があるが、地域にはこういう取組みが必要であるということ把握するためにも、ラブリーホールにサポーターのサテライト的なものがあればいいかと考える。そこを育成して文化に対するニーズを吸い上げてみてはどうか。市民が何を求めるかというのはラブリーの中にいると実は分かりにくい場合もある。

(担 当) 文化振興計画推進委員会からも平成20年か21年に同じような提案をいただいた。サポーター的な方によって地域のニーズをつかめるのではという提案であったが、まだまだその段階まで検討できていない。

(評価者) アウトリーチ事業について詳しく教えてほしい。

(担 当) プロのアーティストが小学校の授業時間中に訪問し、演奏を行ったり、また子供たちと一緒に演奏をしている。平成21年から国の外郭団体から3年間補助金をもらって実施してきた。今年度からは財団の独自の資金で学校を回る。「ピュアエンジェル」というグループが学校を回り歌をうたう。

(評価者) 逆に子供たちがラブリーホールに行き、クラシックなどオーケストラの楽器などに身近にふれる体験などしてみてはどうか。

(担 当) 昨年度から行っているのは子供たちに古典文楽になじんでもらうような取組み

である。

(評価者) 他市と比べて休館日が少ないのはなぜか。

(担当) 会館時間は午前9時～午後10時であり週休日をずらすことなど工夫はしている。デメリットは職員がたくさんいることであるが、ただ利用者は多くなるので良い点だと考える。

(評価者) ギャラリーは人が少ないように思う。

芸術的な魅力ある公演はたくさんあるが、平日何もない時にぶらっと行った時に何か催しをしているような施設であればと思うが。

(担当) 普段の利用はやはり貸室が主で、バレエ、ヨガや体操などが多い。

その辺も含めてギャラリーの使い方が1つの課題であると考えている。

(評価者) ギャラリー以外にホワイエの活用はどうか。利益よりも文化振興ということであれば工夫の余地はあると思う。キックスのボランティアの活動も国際交流をはじめ色々やっているので、そういうところとの連携を行っていくことで裾野を広げられるのではないか。本市にもアーティスト的な人はたくさんいるのでそういう人たちをうまく連携させて、引っ張り出すことで観客動員にもつながると思う。

(コーディネーター) 市民の方にお聞きしたい内容の中に、アーティストや地元文化団体との関わり方とあるが、関わり方についてももう少し説明してほしい。

(担当) 文化振興財団と文化連盟は文楽の開催など一部の行事だけでの関わりになっているが、文化連盟には20もの団体があるのでそういうところと密接なつながりをもって、ラブリールホールの文化情報をもっと提供し関わりを含めることで、様々な情報発信ができるのではないかと考えている。

(評価者) 先ほどのスタッフのあり方のところと関連して、現状のスタッフの中にも専門的な方がいらっしゃると思うが、さらに先駆的な取組みを行っていくために文化のスペシャリスト的な人を外部から招聘するといった可能性について検討されたことはあるか。

(担当) 過去にディレクターをひいてきたことはある。

(評価者) 文化の振興に関しては儲からないということであったが、市民が文化はタダと思っているとなかなか文化が広がらないのではないか、文化に対して費用負担すべきだという、そういう方向性を市がリードしても良いのではないか。

(コーディネーター) それでは論点整理だが、まずラブリールホールの収益力を上げること。上げることが必要なかどうかも含めてである。どの部分で自立するのか、他市と比較してどのくらいの収益が妥当なのか。次に文化＝芸術のスタンスについて。本体事業を支えるために、文化＝芸術の考え方を変えてみるなど、文化の捉え方を広くすること。次に今後の指定管理のあり方について。5,000万円の積立額の内訳や年々どのように利益を積み上げているのか。先駆的に取り組む事業をどう考えるのかなど。次に市民活動の導入について。ソフト部分で支える部分はないのか、スタッフ

の具体的な仕事やボランティアの入る余地など。最後に文化振興としての中核施設としてまだまだできることはないのか。文化に対する費用負担のあり方など。以上よろしく願います。